

TAKE
FREE

SEISEKI ZINE

聖蹟人



People Guide in Seiseki-Sakuragaoka

#1

その道を駆け上ろう。
自分らしいスピード感を大切にしながら。
想いを届けるために。
舞台は今日も聖蹟桜ヶ丘！

セイセキに坂あり！ ランナーのためのジムオーナー



実業団の女子陸上競技部に所属し、競技生活を送った矢田さん。ケガばかりで走れなかった経験を生かそうと思い、引退後、専門学校に進み、鍼灸師・あん摩マッサージ指圧師に。現在はトレイルランニング、ウルトラマラソンを中心にランナーとしても活動中だ。

「セイセキの坂って、600メートル以上取れるところが多くて、1キロ取れる坂だってあるんです。これはランナーにとって、とても恵まれた環境なんです」

そう語るの、一ノ宮でトレーニングジム「TREAT」を運営する矢田夕子さん。プロアスリートから運動初心者まで、科学的なアプローチと治療的見地の両面からサポートを行っている。スポーツブランドALTRAのアンバサダーを務める矢田さんは、自身も国内外の数々の大会に出場するアスリートでもある。

「丘陵地帯ならではの坂道や未舗装路があり、河川敷など平坦なコースでも走れるのがセイセキの強み。トラックを走ろう

と思ったら、多摩東公園の競技場に行くこともできます。競技やトレーニングプログラムに応じて、豊富にコース選択ができる場所ってなかなかありません」

ランニングに適した坂道コースを見つけるのは、都心などでは至難の業だそう。「もちろん都心部にも急坂はありますが、傾斜はあっても距離がありません。でもここには長距離の坂道がたくさんあって、しかも自動車や歩行者の妨げにならずに走れるんです」

聖蹟桜ヶ丘は、マラソンやウォーキングからトレイルランニングまで、ありとあらゆる「走りたい」に応えられる街な

のだ。そもそも坂道が多くランナーを惹き付けるのはなぜだろうか。

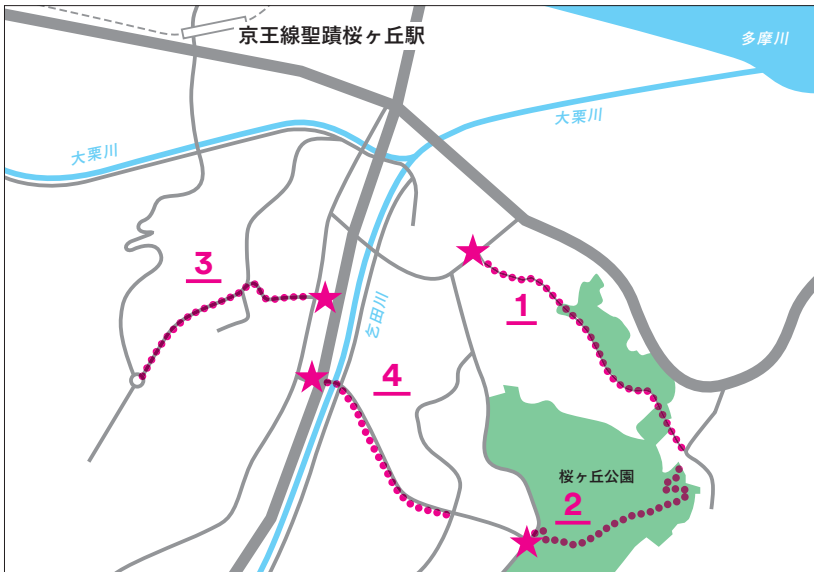
「まずはトレーニングという観点から言えば、膝や足首などに必要以上の極端な負荷がかからないので、ケガなどのリスクを抑えながら心肺機能を鍛えられるというメリットがあります。坂道のようなところで、一定以上の速度と時間を保ったトレーニングができれば、発揮できるパワーを高め、ポテンシャルをどんどん引き出すことができます」

景色を眺めながら走ることの爽快感も、坂道コースの魅力だ。

が案内する「激坂」4選

一ノ宮でトレーニングジムを運営する矢田夕子さんにとって、聖蹟桜ヶ丘エリアは自分の足を使って毎日ワクワクしながら“さまざまな景色”と出会える場所だ。“坂の街”として知られ、多くのランナーに愛される理由を聞いてみた。

Interview / Text: Akira Andoh



2 桜ヶ丘公園内

多摩桜の丘学園前の信号機から桜ヶ丘公園に入り、園内の杉の辻からスタートし、ゴールの記念館口まで約700メートルの距離があるロードコース。「春は桜並木の中を走れ、とても気持ちがいいです」

スタート地点の緯度経度 35.636195, 139.458262

3 安保入道の墓～桜ヶ丘東通り

都道18号の安保入道の墓から住宅街を抜け、ゴールの桜ヶ丘東通りまで約750メートルの距離があるコース。「途中、いろいろな坂をつないでいきます」

スタート地点の緯度経度 35.643187, 139.450693

4 ひじり坂

鎌倉街道沿に流れる乞田川からスタートし、ひじり坂を上っていく約600メートルの距離があるコース。「ゴール地点の聖ヶ丘一丁目の信号から下ると、街の様子を見ることができます」

スタート地点の緯度経度 35.640807, 139.451238

1 記念館通り

都道41号沿いにある記念館通りの入口からゴールの信号・聖蹟記念館まで約1キロの距離があるコース。「最初から最後まで気が抜けない坂道です。中盤に夜景がきれいな桜ヶ丘公園・ゆうひの丘があります」

スタート地点の緯度経度 35.644454, 139.456416

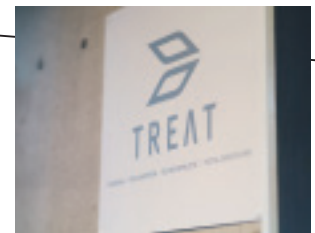


「やっぱり高いところの景色って気持ちがいいですし、その景色を、坂を登り切った達成感とともに味わうのは至福の時です。練習後にセイセキの夜景を眺めたり、春は桜並木の中を走ったり、時間や季節の変化を景色の中で体感できるのも、ランニングの大きな魅力です」

新しい街と出会ったら、「まずは走って街を知る」のが矢田さん流。自分の足で辿ることで、距離や高低差を立体的に体感し、看板や建物、木々が織りなす景色などから、街の成り立ちや表情を伺うこ

とができるのだという。そんな矢田さんから見て、聖蹟桜ヶ丘はさまざまな顔を見せてくれる街だ。

「未舗装路も含め、古くからの道を今でも多くの人が行き来している様子をよく見かけます。歴史は古いんですが、『こんな街です』みたいに形が固まってしまっているわけでもなくて、人によって見え方が違ってくる街なんじゃないかなと思います」
自分の足で辿ってみれば、きっと自分なりの「セイセキの形」が見えてくるはず。



TREAT

● 多摩市一ノ宮 2-6-39 IMビル2・3F

☎ 平日 (10:00～21:00)

土 (9:00～20:00)

日祝 (9:00～19:00)

☎ 042-400-6397

<https://treat-running.com>



映画を通して人と人をつなぐ カフェバー「キノコヤ」



聖蹟桜ヶ丘駅から徒歩5分。大栗川の目の前に佇むお店「キノコヤ」は、TAMA 映画フォーラムの
実行委員でもあった黒川由美子さんが店主を務めるカフェバーだ。映画好きをはじめ地元の人たちが
つながる場として日々輪が広がっているお店の魅力を聞いてみた。

Interview / Text:Kaori Shibuya

ロケーション抜群な 「地元」の良さ

元々映画が大好きで、ミニシアター
で働いたり自主映画も製作してきたと
いう、店主の黒川由美子さん。映画を
上映できるカフェバー「キノコヤ」を
開店しようと思ったきっかけは、「映
画を上映し、その後にお酒やコーヒー
を飲んで交流できる。そんな場所が欲
しいなあと思っていたんです」と語る。
開店にあたり、なぜ聖蹟桜ヶ丘という
場所を選んだのかについては「地元だ
から」という理由が大きいそう。「この
土地で根づいたつながりや、子育てし
ながら出会ったママ友たちといった心
強い仲間を支えられています」

この場所を選んだのは駅から近いこ
と、目の前に流れる大栗川と春になる

と桜が咲くロケーションに惹かれたこ
とも理由の一つ。「キノコヤ」の店名は、
映画の“KINO”と映画館のことを“小屋”
と呼ぶことから付けたとのこと。映画
好きの心をくすぐる仕掛けは、メニュー
にも表れている。おすすめのメニュー
を尋ねてみると「チャパグリとナポリ
タンです」との答えが。「チャパグリ」
は、韓国の辛い焼きそばのようなもの
で、映画『パラサイト』でも登場した
料理。「ナポリタン」も、キノコヤで撮
影された映画『春原さんのうた』(杉田
協士監督)の劇中で作られている料理で、
聖地巡礼している人が訪れると必ず注
文するそう。定期的に開催している店
舗の2階で行われるイベント時も、食
べ物などは上映する映画に合わせて用
意し、鑑賞後に劇中で出てきたものを
楽しんで帰る人も多い。

映画や食事を通して人がつながるこ
のお店は映画関係者も多く、黒川さん
のご主人が映画の監督でもあることか
ら「キノコヤ映画」というレーベルで
製作、配給、宣伝も行なっているとの
こと。今後は新人監督や俳優など、た
くさんの人たちにもお店づくりに関
わってほしいと、黒川さんの思いはさ
らに膨らんでいる。

キノコヤ

📍 多摩市関戸 4-34-5

🕒 火・水・日曜 12:00 ~ 18:00、金曜
15:00 ~ 22:00、土曜 12:00 ~ 22:00 (月・
木曜休み)

☎️ 042-400-1127

京王線聖蹟桜ヶ丘駅徒歩5分

※ 映画上映、イベント、ワークショップ
など開催の際は営業時間に変更がありま
す。SNSでご確認ください。



大栗川沿いに ミーアキャット!?

晴れた暖かい日の大栗川沿いにミーアキャットが現れる。この子たちの正体は、爬虫類とエキゾチックアニマルを販売するペットショップ「世界のあいまる」に居る子たち。聞けば、しつけのために散歩を行い、飼い主が現れるその日までのびのびと暮らしているそう。名前は「3ちゃん」「4ちゃん」「5ちゃん」。きちんと名前を付けたいそうだが、「番号に“ちゃん”をつける程度にとどめています」と、オーナーの佐々木祐樹さん。ミーアキャットの愛らしさと珍しさが相まって、散歩すると1日5人には声をかけられるそう。「コミュニケーション能力を上げるならミーアキャットを飼うといいですね」と笑顔を見せる佐々木さん。ミーアキャットたちが聖蹟桜ヶ丘で人と人をつないでいるのです。

あれ、気になる!!

歩いて見つけた セイセキの 「珍光景」

まち歩きをしていると「えっ!」
と、思わず言いたくなるような
気になる建物や場面、人と出会
うことであるもの。セイセ
キZINE編集部が歩いて見
つけた、セイセキの「ナニ
コレ珍光景」とは? 珍光景
には理由あり!

Interview / Text: Chika Ito

日本酒のフタで メッセージを週2回更新!

東口から徒歩数分、関戸2丁目を歩いていると、店裏の扉に「新生活にはなれましたか?」というメッセージが現れた。よく見ると、日本酒のフタを使った造作文字だ。このメッセージを週2回のペースで描き変えているのは、居酒屋「かど鉢」スタッフの田村沙和さん。同店は美味しい肴と厳選された日本酒をカウンターで楽しめるお店で、3年前から田村さんが道を歩く人たちに向け、時節に合わせたメッセージを描いている。梅雨の時期には「晴れの日が待ち遠しい」、東京五輪で日本選手が活躍した時には「金メダル、おめでとう」、コロナ禍には「セイセキ、がんばろう」といった風に描き続け、新聞社から取材を受けたこともあるそう。田村さん流の地域とつながるメッセージボードなのでした。



商店会会長が想う“セイセキのこと”

生まれも育ちも一ノ宮。1960年創業の「三橋畳店」の2代目として店を切り盛りする傍ら、桜ヶ丘南口商店会会長、せいせきみらいフェスを主催する実行委員会の委員長など、聖蹟桜ヶ丘を縁の下から盛り上げるその原動力を聞いてみた。

Interview: Yu Koyabashi

故郷を商店会から元気に 新しい道をつくりたい！

「セイセキっていい街だよなあ。住んで良かった。古くからこの街を知る人はもちろん、新しく暮らし始めた人たちにも、こんな風に思ってもらいたいです。街を舞台に、人と人をつなぐ橋渡しの存在になれたなら、僕は幸せです」

丁寧に言葉を選びながら、穏やかな口調でこう話すのは三橋誠さん。家業、商

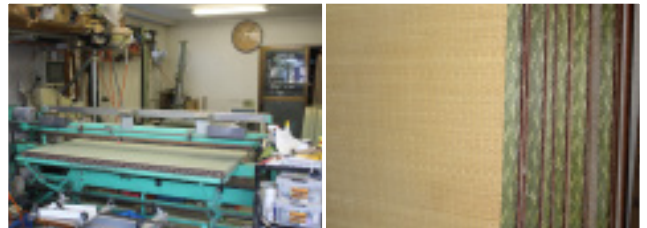
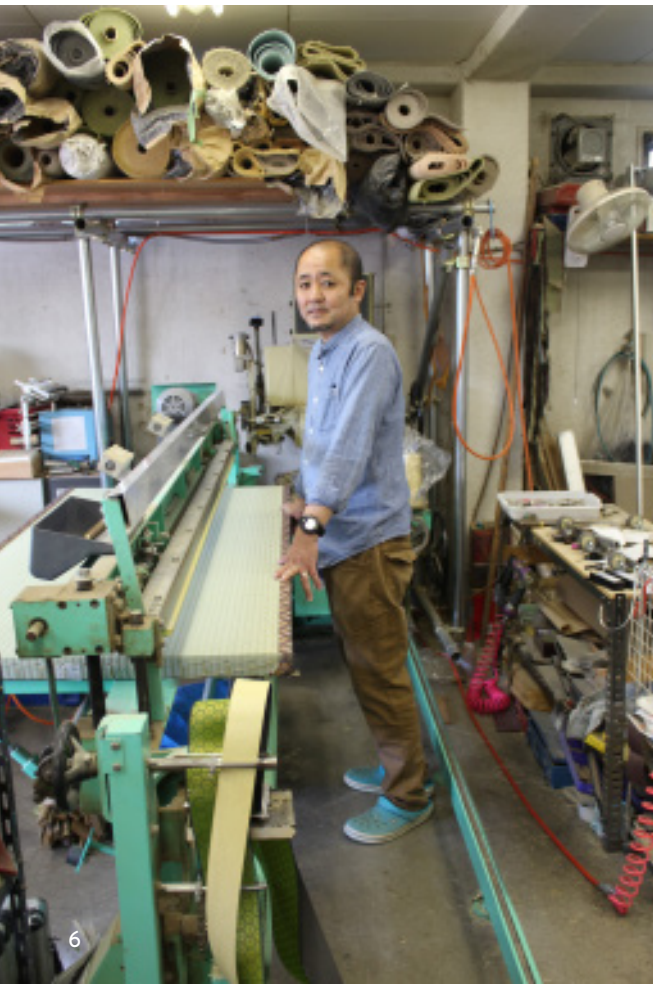
店会、消防団、せいせきみらいフェスなど、何足もの草鞋を履き、忙しく毎日過ごしている。聞けば、子どもたちに伝統文化を伝えたいという想いから、畳職人として母校で課外授業をしたことも一度や二度にあらず。2011年以降休止になっていた「せいせき多摩川花火大会」の新しい形での復活を目指し、地元商店会や住民と話し合いを重ねながら2015年にせいせきみらいフェスティバルの開催にこぎつけた。三橋さんはその中心メンバー

のひとりでもある。「僕がまだ若かった頃、聖蹟桜ヶ丘には多摩川関戸橋花火大会があり、自宅から花火を見るのが夏の風物詩でした。それから40年近く経て、街の様子は様変わりし

たけれど、今日も多摩川は大らかに流れ、子どもたちは変わらず元気に遊んでいます。KAOFESとみらいフェスが子どもたちにとって毎年の楽しみになったとしたら、これほど嬉しいことはありません。「みらい」を担うのは子どもたちですから」

見る立場からやる立場へ。聖蹟桜ヶ丘の街の歴史とともに歩みを進めてきた三橋さんにとって、地域と密に関わり、さまざまな形で縁の下から盛り立てていく原動力は“地元愛”に他ならない。

「夢は、聖蹟桜ヶ丘を愛する人がひとりでも多く増えてくれることです。そのために行えることは限られるかもしれないけれど、それでも地域の伝統を活かしながら、商店会として新しい道を作っていきたいと思っています。街で僕のことを見かけたら気軽に声をかけてください。ポジティブな意見だけでなくネガティブな意見に耳を傾ける準備もできていますので」



三橋さんは畳職人。父親が開いた畳屋を継ぎ、今年で35年目。地域の活動を続けながら、畳屋の主として多摩エリアを中心に動き回る日々。写真左下のとおり、三橋畳店ではPayPayほか、ほぼ全てのキャッシュレス決済が可能だ。

「KEIO春の
ビールまつり」を
開催しました。



今回紹介するのは…
京王電鉄 SC 営業部
京増多美恵

せいせき
京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター

多摩地域の街の活性化に貢献したい。地域連携したイベントを開催したい。こんな思いのもと、2023年4月20日から4月23日の4日間にわたって「KEIO春のビールまつり」を京王聖蹟桜ヶ丘SC内で開催しました。京王線沿線や多摩地域に所在する12カ所のブルワリーが一堂に会したイベント期間中は、原材料や製法、味や色合いの異なる個性豊かなクラフトビールを飲み比べできるとあって、多くの方々に来訪していただきました。ビールまつりの期間中、本イベントに参加した多摩地域の若手醸造家によるトークセッションやお酒が飲めない子どもでも楽しめるミニ緑日、スタンプラリーも企画。地域を中心に活躍するミュージシャンによる生演奏、地元農家によるたけのこ販売など、多くの方々に楽しんでいただけるよう、さまざまな企画をご用意しました。会場の賑わいに触れ、来訪した皆さまの笑顔を見るにつけ、開催して良かったなあと感じました。次回のKEIOビールまつりも検討していきます！



写真上：京王聖蹟桜ヶ丘SC A館8階BBQ場で開催。期間中は天気にも恵まれた。中：同SC B館2Fセンターコートではファミリーで楽しめるようにミニ緑日もオープン。下：連日、さまざまなイベントを開催。多くの来訪者の笑顔を誘った。

お祭 ビール

今回の深堀

せいせき
桜まつり



話を聞いたのは…
第42回実行委員長
飯島聖士

Photo: Yu Kobayashi

開催まで2ヶ月半！ 一致団結して乗り切る

新型コロナの影響で2019年以来、実に4年ぶりに「せいせき桜まつり」(4月2日)を開催することができました。例年ですと実行委員の皆さんを中心に、半年以上かけて月例の会合で詳しい内容を詰めて進めていきますが、今年は開催可否の判断をしたのが1月中旬。そこから全9つある会場に登場する各種団体にお声がけし、エリアごとのイベントのタイムスケジュールを詰めていき、さくら通りで行うパレードの段取りも確認。ボランティアの皆さまを含めた当日の交通整理や各会場のスタッフの検討など、限られた時間の中、確認すべき宿題が山積みでした。厳しい局面を乗り越えることができたのは、実行委員同士の強固な横のつながりと有志で関わってくださった多くの方々のお陰だと思っています。かくして当日を迎え、天候にも恵まれ、ご来場した皆さまの笑顔を多く見ることができました。



「セイセキの風景」

Sounds Good に切り撮る

多摩市生まれ多摩市育ちで、聖蹟桜ヶ丘の季節や空気を撮影されている、写真家の「もなみん」さん。インスタでも聖蹟桜ヶ丘の魅力をもなみんさんならではの感性で切り撮り、高い人気を誇っている。

Instagram
フォロワー数
64,000人!



「坂」と「文字」を通して切り取る聖蹟の魅力

「もなみん」さんがいつも何気ない風景を撮っているこの街の魅力は、「坂が多いところ」。小学校の頃から、多摩丘陵の地形の特徴であるアップダウンのある坂を上り下りしていたことから、もなみんさんにとって“坂”は聖蹟桜ヶ丘の特徴で、その景色に落ち着きを感じるのだそう。その中でも最も好きな坂は、ジブリ映画『耳をすませば』の聖地にもなった、いろは坂。その理由はカーブがたくさんあるからとのことで、「カーブの箇所には、左カーブ・右カーブと必ず書かれていて、その言葉が可愛い」と話す。誰もが坂と聞くと急勾配でハードなイメージをするかもしれないが、もなみんさんのフィルターを通すと、その坂も穏やかな表情へと変わる。安全を守るカーブミラー、注意を促す左カーブ・右カーブという表記も、もなみんさんの写真が

らは聖蹟桜ヶ丘のゆるく、優しい空気感が伝わってくる。写真の面白いところは、「目で見てみんな同じように見える景色も、撮る人によってその人の想いや視点で撮れる、写真の作風が表れたりするところが面白い」と話す。

写真だけではなく、写真の中に文字入

つは小学生時代にある。ノートの隅っこにアレンジした変な文字や架空の人の文字、違う人の筆跡を何個も書いて楽しんでいたそう。国語の先生の文字を見て分析したり文字についての想像を膨らますことで、今の「もな文字」が出来上がったのだろう。



もなみんさんは、2023年9月に初の個展を開く。地元・多摩市をテーマにして撮影した写真を展示し、それなら場所も多摩市内がいいなというきっかけから今回のインタビューの撮影でも利用した、ご友人であり聖蹟桜ヶ丘で大人気のハグジードーナツさんで開催することに。「多摩市って何気ない街だけ良いところがたくさんあって、

私というフィルターを通して写した多摩市を見ていただきたい。多摩が好きで、多摩に住んだばかりでこれから知っていきたい人、もっと自分の地元を好きになりたい人、たまたま訪れた人など、どんな方でも大歓迎です」

れをした「もな文字」もまた、もなみんさんの代名詞。ゆらめくその文字の筆跡は、もなみんさんの人柄そのもの。そして、景色を切り撮った言葉の数々からは聖蹟桜ヶ丘のときめく日常の何気ない瞬間が描かれている。そんな「もな文字」のルー

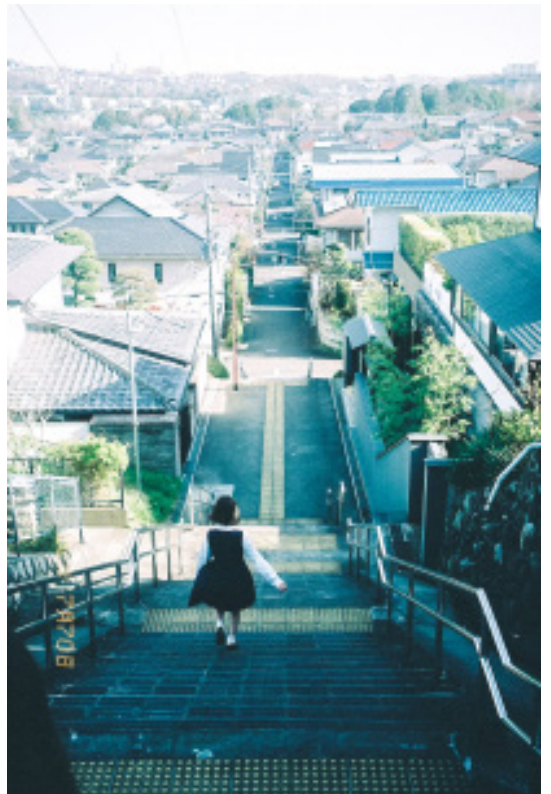
私というフィルターを通して写した多摩市を見ていただきたい。多摩が好きで、多摩に住んだばかりでこれから知っていきたい人、もっと自分の地元を好きになりたい人、たまたま訪れた人など、どんな方でも大歓迎です」



①



②



③

も
な
み
ん
写
真
館

- ①「もな文字」を始めるきっかけになった一枚。どこか切なさを感じるワードセンスと、もなみんさんのゆらめく文字には、ファンも多数。
- ②この街の魅力は「坂が多いところ」。もなみんさんのフィルターを通すと急カーブも、どこか優しく柔らかな形に見える。
- ③お気に入りの一枚としてあげてくれたこの写真は、多摩丘陵であるこの土地を象徴する「高低差」が映し出されている。

「誰でもおいで」と受け入れてくれる、みんなの居場所



左から運営メンバーの成瀬明子さん、大橋徹平さん、松尾さん、御代大樹さん、大芝創さん。

点と点が線になって活動が広がっていく場

「お帰りなさいー!」と“三丁目の家”と書かれた古民家の中に子どもたちが入っていくと、中で迎え入れる大人たちが温かく声をかけて迎えてくれる。焚き火に薪を「くべる」ように火を絶やさず、さまざまな人たちが関わり合いながら地域のつながりを絶やさずに続けていきたいという思いから付けられた「くべる会」と、多様な暮らし方を受け止められる住環境づくりを目的としたコレクティブハウジング社が立ち上げた。この場所を運営している人の多くは、多摩市で子どもたちを育てるお父さんたちだ。代表を務める松尾友起さんは、市内にあるバオバブ保育園の保育士でもある。

島根から上京して30年以上多摩市で暮らし、自身も父親として、たくさん子どもたちを送り出してきた保育士として「子どもたちが大人になっても集まれる場所」を作りたいという想いがあった中、地域コミュニティを大切にしている大家さんが古民家を貸してくれることに。保育園でつながった仲間たちの協力を得て地域の居場所としてオープンさせた。

地元の小学生をはじめ、「地元で育てられた」と語る20歳の大学生まで、たくさん子どもたちが「帰ってくる」場所となっている。同じ多摩市関戸の農家さんから届く新鮮野菜を軒先で売る“やさい市”や、くべる会のメンバーが持ち寄り



た本が本棚に並び、定期的に読み聞かせも行っている“こども文庫”など、集まる大人や子どもたちが関係性を築く仕掛けが盛りだくさん。「やりたいことがたくさんあって」と、次々にイベントを発案する松尾さんのアイデアが形になっていくことで、親子をはじめ多世代の交流の場がどんどん広がっている。「大切なのは、これをずっと継続していくこと。地元でこれからも根付いていくよう、保育園の保護者が代々引き継ぐのも良いですよ」松尾さんの“夢しかない”熱い想いは、周囲に伝播してつながっていく。

三丁目の家

- 📍 多摩市関戸 3-18-3
- 📄 やさい市&こども文庫
毎週金曜日 15:30 ~ 18:00 (年末年始を除く)
- ☎ 080-5542-6947 (総務 大橋)
- 🚶 京王線聖蹟桜ヶ丘駅徒歩 11 分

Photo: KAEDesign



セイセキ 歴史 WALK

#1 関戸橋

多摩市と府中市間の多摩川に架けられた関戸橋は、交通路の整備と多摩村の経済の活性化を図るため、1937年に開通した。長さ375.8メートル、幅8.8メートル、13連結のコンクリート橋は、当時の同形式の橋としては国内屈指の規模で、橋脚ごとに橋灯付きのバルコニーが設けられ、国内でも数例しかない橋だった。

1971年に上り専用の橋が増設された後、下り専用で供用されてきたが、老朽化によって架け替え工事が決定。2018年、81年間の役目を終えた。関戸橋架

け替え工事は約16年間に有す事業で、今年で9年目。新しい下流橋には歩道が設置され、上流橋、下流橋ともに歩道が整備された安全で快適な関戸橋に生まれ変わる予定だ。

「思い入れの深い橋なので残してほしい」。住民からのこんな声を受け、ろくせぶ公園（関戸2丁目）に現在、多摩市側の親柱一対とバルコニー部分一カ所、左右の欄干部が保存され、橋の歴史や写真、保存に至る経緯などを記した解説板が設置されている。



— 聖蹟桜ヶ丘プロジェクトにかける想い —

東京建物とセイセキ。

信頼を未来へ。私たち東京建物は、街づくりを通じて豊かな社会づくりに取り組んでいます。2019年に着工した「サクテラス」は、2022年10月に竣工した「Brillia Tower 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING RESIDENCE」（タワー棟）のほか、現在建設中の商業棟「サクテラスモール」、「Brillia 聖蹟桜ヶ丘 BLOOMING TERRACE」（テラス棟）の3棟からなる住商一体の大規模複合開発です。私たちはリバーサイドテラスをコンセプトに、多摩市の玄関口に相応しい佇まいと、多摩川の自然環境と調和する緑溢れる街づくりを目指しました。本プロジェクトが聖蹟桜ヶ丘に暮らす、そして集うたくさんの方々に愛される街になったとしたら、開発に携わった者とし



東京建物
住宅事業第二部
事業推進グループ
河越春樹

てこれほど嬉しいことはありません。これからのサクテラスモールの開業、また2024年11月の街区全体の完成を楽しみにいただければ幸いです。



掲載の現地周辺写真は、竣工済みのタワー棟を含む現地方向を撮影（2022年8月）し、サクテラスモール及テラス棟の完成予想CGを合成したものです。聖蹟桜ヶ丘駅から多摩川までの距離感、サクテラスの規模感が一目瞭然。

「新しい道の創り方」

「地域の育み方」

世界140カ国を巡った探検家に聞く

1日を愛し、1年を憂い、千年に思いを馳せる。
こんな言葉を大切にしている桃井さんは、世界を取
材しながら巡り、地域の活動にも積極的な人だ。
地域通貨、おやじの会などに参加してきた、探
検家が考える、地域の育み方とは？

Interview: Hironori Matsukawa

写真家、ノンフィクション作家、大学
教授、多摩循環型エネルギー協会代表理
事……聖蹟桜ヶ丘に居を構えて27年、桃
井和馬さんの職業欄は多彩だ。いったい
何者？ 軽やかな語り口ながらどの話も豊
かに広がり、示唆に富んでいる。そして
何より、生の歩みそのものがエネルギー
だ。きっとそう、桃井さんの根っこは
探検家だ。

「冒険家か探検家か、この二択で応えら
れるなら僕は探検家タイプだと思います。
冒険の主体は自分、探検の主題は土地で
す。振り返ってみると“土地の物語を追
う”ことにずっと没頭してきました」

ヒマラヤの交易路、サンティアゴ巡礼、
レバノン・実践する和解、エチオピア・
三位一体教会、マルタ・和解の島……世
界140カ国を巡った桃井さんがこれまで
取材・撮影し、世に発表してきた物語
は数限りない。歴史や宗教、地政学など、
縦横無尽に知と向き合いながら、自ら率
先して行動する。その姿勢に「らしさ」
がある。

1日を愛し、1年を憂い、千年に思いを
馳せる。こんな言葉を大切にしている桃井
さんは、身近な人や家族、地域が幸せであ
ってほしいという気持ちを大切に、地域
の活動にも積極的だ。25年前には多摩エ
リアで初めての地域通貨に参加。

「地域経済の活性化の手段として地域通貨
には可能性がある」と今でも信じています。
人と人が出会い、初めて取引が成立する
仕組みです。着想の原点には、地域通貨
を流通させることで、支え合いのきっか
けづくりになればという思いがありまし

た。この活動に参加したことで多くの友
だちができ、僕自身の地域愛も深まって
いくことになりました」

聞けば、小学校のお父さんの有志の集
まり「おやじの会」を発案したのも桃井
さんとその仲間たちだったそう。春は大
栗川清掃、梅雨明けは芝刈り作業、夏は
冒険キャンプ、正月はどんど焼き……1年
間を通じてさまざまな活動を行う「おや
じの会」は今や、地域の人と人との距離
を縮めるコミュニティとして定着した。

地域をつなぐ活動に尽力する桃井さん
は、東日本大震災の福島第一原発事故を
契機に、原発に代わる再生可能エネルギー
の地産地消の取り組みをスタートさせた。
現在、多摩循環型エネルギー協会代表理
事を務める。

「3.11は現代社会の常識や価値観、それ
に基づく社会システムに対し、根本的な
見直しを迫ったと思っています。今こそ、
自らできることを現実の形にしていかな
ければならないという強い思いを持ち、
協会を友人たちと設立、その第一歩を踏
み出しました。事業のコンセプトやアイ
デアは出させてもらいましたが、基本的
には皆さんにお任せしています。住民参
加による循環型エネルギー事業のプラッ
トフォームの構築、再生可能エネルギー
の普及に関わる啓蒙活動、想いを共有す
る賛同者や支援者の輪の拡大など、活動
内容はさまざまにあります。この記事を
きっかけに、地域の皆さんの多くにこの
活動が届いたら嬉しいです」

探検家・桃井さんの次代につなげる「新
しい道」づくりは終わらない。



桃井和馬

1962年生まれ、東京都出身。写真家、
ノンフィクション作家、日本写真家協
会会員。恵泉女学園大学人文学部教授。
これまで世界140カ国取材し、紛争
や地球環境を基軸に、文明論を展開。
著書多数。



ち多
から摩の
ミートアップ

2023年4月9日、晴天。
一ノ宮公園（多摩川河川敷）で
「せいせきさくらがおか
MERRY GO ROUND」と題した
マルシェを開催！
ドーナツ屋とコーヒー屋、
二人のオーナーが中心となり
企画。第1回、いかがでした？

Photo: KAEDesign

HUGSY DOUGHNUT

松川寛紀

×

京王電鉄
聖蹟桜ヶ丘プロジェクトチーム

宮原優人

×

tak beans

松崎雄大

宮原—2022年秋に開催した聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり社会実験の時、この河川敷で松川さんからマルシェを企画したいというお話をいただき、その場で『面白そう、実現させましょう』というやりとりを経て、マルシェプロジェクトが発足しましたね。

松川—即断即決でしたね。宮原さんの男気には感謝の気持ちしかありません。後日、マルシェの名前を決定。いつかこの場所にメリーゴーランドを作りたいという想いを込め、この名前にしました。

松崎—MERRY GO ROUNDという名前は僕もお気に入り。NYのブルックリン南西にコニーアイランドっていうビーチリゾートがあって、その地区にある遊園地『ルナパーク』のレトロな雰囲気とビーチ沿いでんびりできるところが好きで、その空気感を感じられるようなマルシェにしたいなって二人で夢を語り合いました。

宮原—松川さんのHUGSY DOUGHNUTと松崎さんのtak beansはともに、聖蹟桜ヶ丘エリアにあるお店ですね。まちを盛り上げたいという思いを持ち、二人とも率先してマルシェに出店する店を選定し、オーナーに声がけをしてくれたり、クリエイターと二人三脚でパンフレットを制作してくれたり、とても助かりました。

松崎—いろいろなプロセスを含め、みんなで楽しみたいという気持ちが強いほうな

ので、楽しみながら準備できたと思います。
松川—行政との調整など、ムズかしい部分は宮原さんが対応してくれ、こちらこそ感謝の気持ちでいっぱいです。僕ら二人ができることは蚤の市やマルシェ、フェスへの出店で培ってきた人脈を活かすことだったり、会場のハッピーな雰囲気づくりのための音響関係だったりするので、役割分担は上手にできましたね。

宮原—二人の強い想いがなければ実現できなかったイベントなので、第一回目となった今回に引き続き、今後もよろしくお願いします。もちろん僕も楽しみです。
松崎—もしも10年続くイベントになったら文化になると思います。これまで聖蹟桜ヶ丘に無かったカルチャーを自分たちで作れたら嬉しいです。継続していきましょう！

松川—聖蹟桜ヶ丘で暮らしている人は、新しいものを応援する気持ちが強い人が多い気がしてます。自分たちの楽しいを表現していけば、どんどん楽しいの輪が広がっていくと思います。

松崎—みんなの友だちが、さらに友だちを連れてきてくれて、たくさんの人たちが楽しめるイベントにしたいです！

宮原—今回、お店に行列が絶えないほど多くの方が遊びにきてくださったので、第2回以降は規模を大きくできそうですね！

聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり 社会実験第2弾、実施中!

地域の資源をみんなで活かす。こんな思いのもと、多摩市と聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会が主催し、聖蹟桜ヶ丘エリアの多摩川河川敷の新たな活用に向けた取り組みとして、2022年秋に「聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり社会実験」を実施した。今春、2回目となる社会実験が実施されている。事務局の多摩市行政管理課、同協議会メンバーの事業者のひとつ、京王電鉄の担当者の二人に見どころを聞いた。

那須楓 (多摩市) — 現在実施中の社会実験第2弾では、企画公募型にこだわりました。
佐藤円佳 (京王電鉄) — 河川敷での豊かな日常づくりを目指す取り組みなので、持続可能な仕組みにしていけるためには、街づくり活動の一環という意識を持って能動的に参加してくださる方の存在がとても大切だと思っています。募集要項でもコンテンツのレベル感を問わず“やってみたいこと”のある人たちを広く募集しましたね。

那須 — 企画は特に思いつかないけど何かしてみたい人。かわまちづくりに関わりたい人。企画を実施するための備品は持っていないけれどやりたいことがある人。こんな風に『リクエスト込みの提案を歓迎します』と、募集要項に書いて良かったです。

佐藤 — 広く、参加者を募ったことで昨秋の社会実験と視点の異なるプログラムが揃ったと思います。

那須 — バーベキューをはじめ、ドッグ

フェスタ、鳥形ドローン体験会、絵本の読み聞かせをする青空文庫、テント張り体験……実際に体験したら面白そうなプログラムが多彩に集まったと思います。

佐藤 — ファミリー向けのプログラムが多くラインナップできたところも今回の特徴のひとつです。個人的にはドローン体験会が楽しみです。河川敷からドローンを飛ばすと、どんな景色が広がっているのか。聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり計画に関わるひとりとして興味津々です。

那須 — 新たに聖蹟桜ヶ丘に移り住んだ皆さんにもぜひ、足を運んでもらえたらと思っています。多摩川河川敷という地域資源で、居心地のよい水辺空間を実感してくださいたら嬉しさもひとしおです。

佐藤 — 世代を問わず、誰もが主役になれる街。かわまちづくり計画を通し、皆さんの聖蹟桜ヶ丘愛が深まったら嬉しいです。

那須 — 本誌を手に取り、社会実験が始まっていることを知った皆さん、お散歩がてらぜひ会場にいらしてみてください。



スケジュール

2023年5月13日(土)・5月14日(日)【BBQデー】
手ぶらでBBQ 11:00 ~ 16:00
カクテル販売 11:00 ~ 16:00

5月14日(日)
給水スポットはこちら! 11:00 ~ 16:00
キッチンカーでコミュニケーション 11:00 ~ 16:00

5月17日(水)
多摩川 Educate 10:45 ~ 11:30
水辺でランチ 11:00 ~ 14:00

5月20日(土)・5月21日(日)【ドッグフェスタデー】
せいせきドッグフェスタ 10:00 ~ 17:00

5月24日(水)
多摩川 Educate 10:45 ~ 11:30
水辺でランチ 11:00 ~ 14:00

5月27日(土)【親子デー】
鳥のように羽ばたくドローン体験会 11:00 ~ 17:00
みずべあおぞら文庫 11:00 ~ 17:00
手持ち花火の夕べ 13:00 ~ 19:00

6月3日(土)・6月4日(日)【アウトドアデー】
一緒に多摩キャン 10:00 ~ 16:30
お子様連れOK! リバーサイドヨガ 10:30 ~ 16:00
ホットドッグとモリンガ茶販売 11:00 ~ 17:00

6月4日(日)【アウトドアデー】
出張! テント・タープ試し張り体験会 10:00 ~ 16:00
キッチンカーでコミュニケーション 11:00 ~ 17:00

6月10日(土)【親子デー】
ドローン飛行 10:00 ~ 16:00
楽しい遊具広場 10:00 ~ 17:00
みずべあおぞら文庫 11:00 ~ 18:00

6月11日(日)【親子デー】
satomiyoga 9:00 ~ 9:30
川辺でおもちゃの広場 10:00 ~ 14:00
楽しい遊具広場 10:00 ~ 17:00
ホットドッグとモリンガ茶販売 11:00 ~ 17:00
たまたま奏でる繋がるプロジェクト 13:00 ~ 14:00

コンテンツ実施日全日 キッチンカー

Follow us! ミズベリング聖蹟桜ヶ丘



Facebook



Instagram

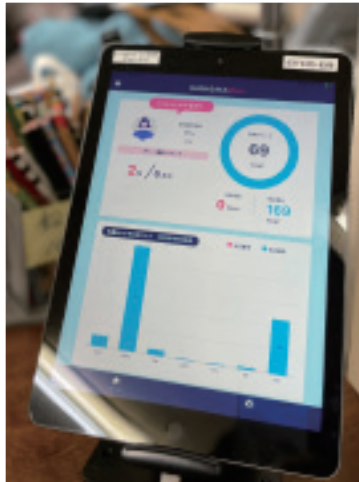


note

主催：聖蹟桜ヶ丘かわまちづくり協議会・多摩市
お問い合わせ：seiseki.kawamachi@gmail.com

『街の花咲かプロジェクト第2弾・健康促進ポイントラリー』を実施。

2022年11月1日から2023年2月28日まで、多摩市と日野市の一部エリアで、外出促進と街のコミュニティ活性化を目的とした実証実験を実施しました。本企画では多摩市愛宕地区や日野市百草などにお住まいの高齢者の方171名にビーコン（発信機）をお渡しし、聖蹟桜ヶ丘駅や京王多摩センター駅など京王線沿線の各駅周辺に設置したポイントスポットに来店した場合や、専用の見守りアプリをインストールした方とすれ違った際にポイントがたまる仕組みを構築しました。たまったポイントは各駅にあるフラワーショップ京王各店ほか、指定店舗で50ポイント毎に生花などの景品と交換できます。着想の原点には新型コロナウイルスの影響で外出する機会が減少し、それに伴って人との交流、体を動かす機会が減少した方々に向け、出歩くことに“ちょっとした楽しさ”を感じてもらい、街に出掛けたいという思いがありました。皆さんご存じでしたか？



ナビゲーター
京王電鉄
沿線価値創造部
澤 昌秀



写真右のとおり、専用ビーコンはご覧のサイズ感。駅周辺に設置したポイントスポットを訪れるとポイントがたまる仕組み。多い日には1日に1000件が作動（2月実績）。

KEIO

市民参加型ローカルマガジン『セイセキ ZINE』発行開始！

市民ライター募集中！

京王電鉄と情報誌『BALL.』を発刊するけやき出版は共同で、聖蹟桜ヶ丘の街の魅力を取材・発信し、地域の価値創造を目指す取り組みのひとつとして、市民参加型ローカルマガジンの発行を開始しました。本誌は、聖蹟桜ヶ丘“People”ガイドをテーマに、毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャー。本誌では、有志の市民ライターとして聖蹟桜ヶ丘の“街の魅力”を深掘りする方々を広く募集しています。

【問い合わせ先】けやき出版 TEL：042-525-9909（平日9時～18時）
MAIL：e-info@keyaki-s.co.jp

市民ライター

安藤賛さん、伊藤千夏さん、小林ゆうさん、澁谷かおりさん、古前遥香さん、松川寛紀さん、水瀬もなみ（もなみん）さん、KAEDesignさん

編集後記

『セイセキ ZINE』を創刊するにあたり、多くの市民の方々のご協力をいただき、今回、創刊号を発行することができました。ご協力くださった多くの皆さまに、この場を借りて感謝申し上げます。振り返ってみますと「ミートアップ まちの魅力発見会議（1）」（2023年3月6日）、「編集ミーティング まちの魅力発見会議（2）」（3月20日）、「制作ミーティング 市民ライター会議」（3月29日）という全3回の会議を開催した後、有志の市民ライターの皆さまのご協力のもと、誌面づくりは進んでいきました。舞台は今日も聖蹟桜ヶ丘。セイセキ愛に満ちた誌面になっていたら嬉しいです。

地元野菜
販売

セイセキ ZINE とは？

セイセキ ZINE (セイセキジン) は毎月1つのテーマを決め、聖蹟桜ヶ丘エリアと所縁のある「人の想い」にフィーチャーする、市民参加型ローカルマガジンです。多摩市在住の有志の市民ライターを募り、セイセキ愛に満ちた誌面づくりをしていきます。